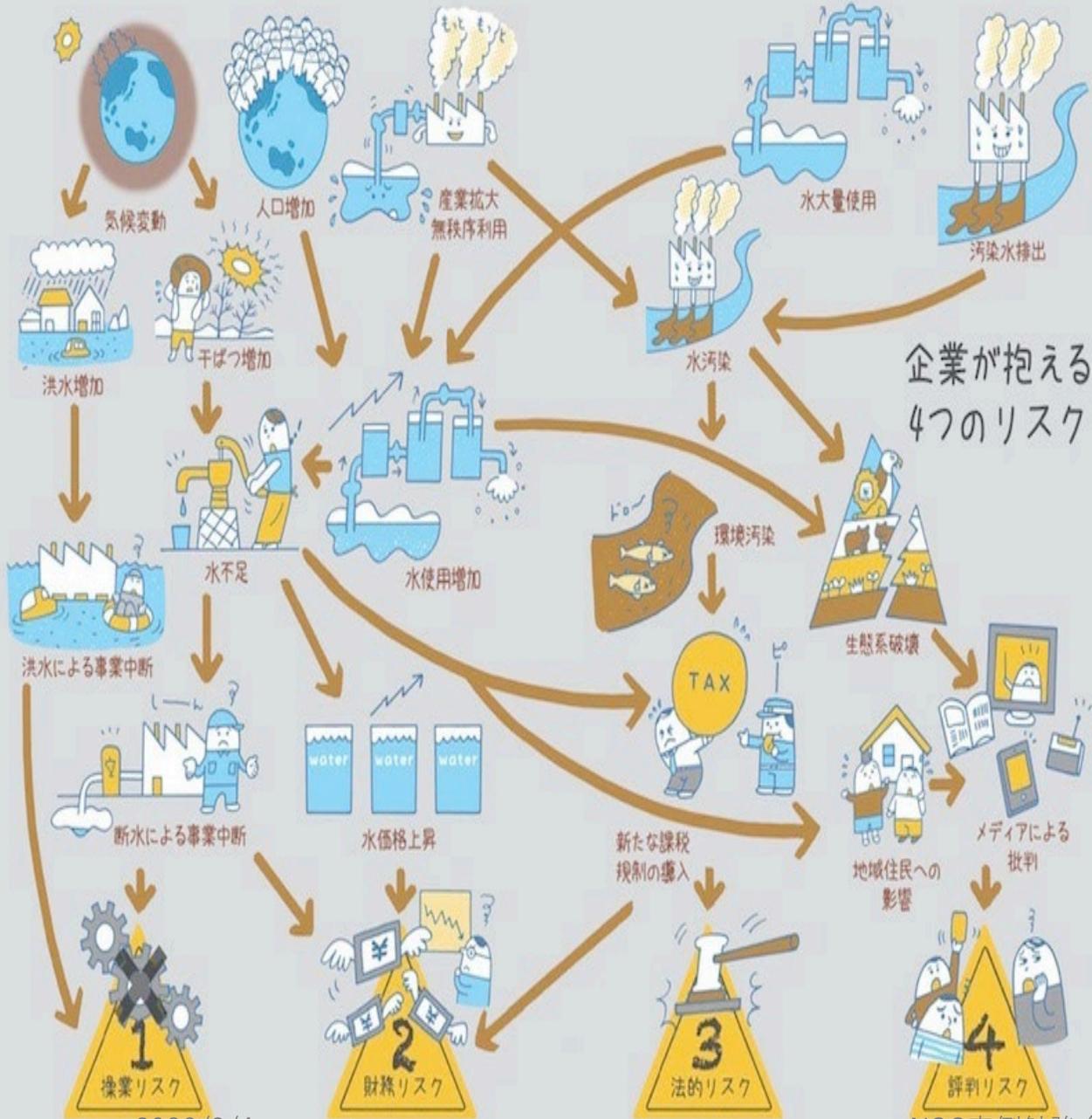


NSC定例勉強会  
知っておきたい水リスク  
企業はどう向き合うべきか

# 第1回 国内外の水資源事情

水ジャーナリスト  
橋本淳司

アクアスフィア水教育研究所  
武蔵野大学サステナビリティ学科



2026/3/4



橋本淳司  
Junji Hashimoto



◆1967年、群馬県館林市生まれ。

## ◆水ジャーナリスト

- 水と暮らしというテーマで調査、情報発信。
- 東洋経済オンライン『意外と知らない暮らしの水のウソ? ホント?』、Yahoo!ニュース『水から考える日本と世界』連載中。
- 近著に『水の戦争』（文春新書）、『あなたの街の上下水道が危ない』（扶桑社新書）、『2024 水の未来予測』（産業文化センター）など。

## ◆アクアスフィア水教育研究所代表

- 学校や地域で、探究的・協働的な学び、水環境に関するプロジェクト活動、環境インタープリターの育成を行う。

## ◆武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教員

- 「水とサステナビリティ」
- 「水と暮らしプロジェクト」

## ◆X @HashimotoJunji 2026.3.1現在

NSC定例勉強会／橋本淳司



# 茂林寺沼湿原 保全・活用 100年プロジェクト



カキツバタの群生

課題1  
水量不足



課題2  
管理コスト



まちの中に浮かぶ湿原（里沼）



フィールドワーク



貴重動植物のすみか



湿原内の散策路

- ①茂林寺沼湿原100年会議の構築
- ②魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」
- ③地域活動者による維持管理トライアル



廃ヨシを活用したオブジェ



冬場のヨシ刈作業

地域ぐるみで“沼(ぬま)る” 茂林寺沼湿原(里沼)の再生!!

# 「雨ともプロジェクト」 (武蔵野市発・雨水からはじまる地域の自治プロジェクト)

## 取組① 地産地消雨水ドリンク

- ・子どもも飲めるソフトドリンク
- ・地産地消ビール



## 取組② 雨庭の実践

- ・小学校や公園における雨庭づくり
- ・戸建住宅における雨庭づくり
- ・地元企業における雨庭づくり



## 取組③ メリットの見える化（評価）

- ・雨水タンク、雨庭による利水・防災・治水・環境に対する効果、その費用対効果（雨水タンクや雨庭を設置することによる降雨時の下水未処理水の放流回数の削減効果など）

## 取組④ 雨を楽しむ場づくり

- ・教育機関へのお出前授業
- ・市民向けWS（雨庭ツアーなど）
- ・他地域の仲間、実践者との交流の場の創出



# 1. 最近の水の事象

# 「世界水資源報告書2024年版」

2025年9月公表。世界気象機関は、国連の専門機関で、気象、気候、水文の観測やデータ共有、研究を通じて、気候変動や自然災害への対応を支援する。報告書の作成は3年目

## 1. 記録的高温

- 2024年の世界平均気温は産業革命前より1.55℃高く、175年の観測記録中最高。
- 年初のエルニーニョ現象が影響を拡大。

## 2. 水循環の極端化

- 世界の河川流域のうち通常状態にあったのは3分の1。
- 南米や南部アフリカで深刻な干ばつ。アフリカ、ヨーロッパ、アジアの一部で壊滅的洪水。

## 3. 氷河の深刻な融解

- 世界のすべての氷河地域で3年連続の氷河縮小、海面上昇への影響。

## 4. 社会・経済への影響

- 洪水・干ばつによる人的・経済的被害が拡大。
- 水不足と洪水が連鎖的に影響する「カスケードインパクト」が顕著。

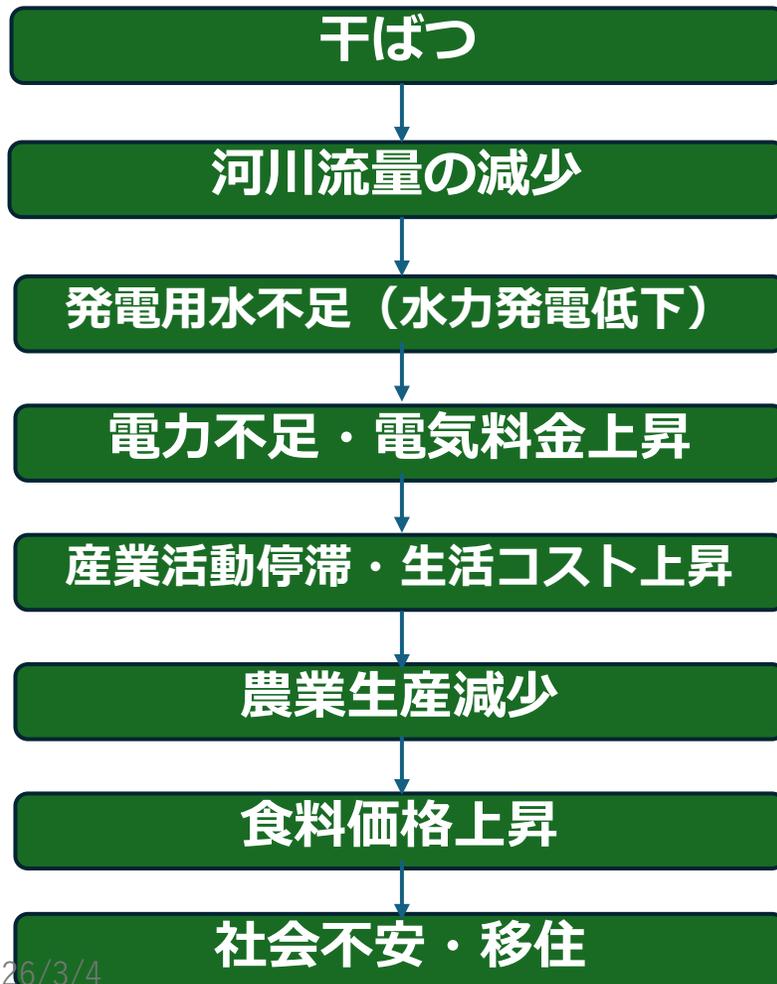
## 5. 提言

- 精密なモニタリングの強化とデータ共有
- 早期警戒システムの整備

# 「カスケードインパクト」

ある1つの現象（問題）が、連鎖的に別の現象（問題）を引き起こし、影響が広がっていくこと。

水が起点となるカスケードインパクトの例①



中国のジレンマ

2020年以降チベット地域で深刻な干ばつ。降水量は例年の2分の1程度

長江流域などで河川流量が減少

水力発電の設備容量

2019年 3億5800万キロワット

2023年 4億2200万キロワット（18%増）

発電量

2019年 1兆1500億キロワット

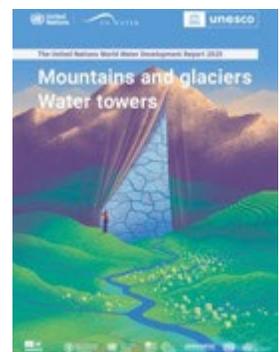
2023年 1兆1410億キロワット

（中国国家エネルギー局）

石炭火力発電の増加（IEA）

# 氷河の深刻な融解

国連「世界水発展報告書」(2025年)



<https://www.unwater.org/publications/un-world-water-development-report-2025>

- 世界の山岳地域の雪氷圏（氷河地帯）が急速に縮小（世界の淡水の55～60%を供給）
- 気温上昇が1.5～4度のシナリオでは、2100年までに山岳氷河体積の26～41%が失われる可能性

## 氷河の重要性

- 水循環の重要な要素
- 淡水供給源
- 生態系の維持
- 熱、二酸化炭素、栄養分を調整し、食物連鎖を支える。
- 太陽放射の大部分を宇宙へ反射し、地球を冷却する役割

2026/3/4

## 氷河減少の原因

- 気温の上昇
- 熱波の発生
- 降雪の減少と降雨の増加

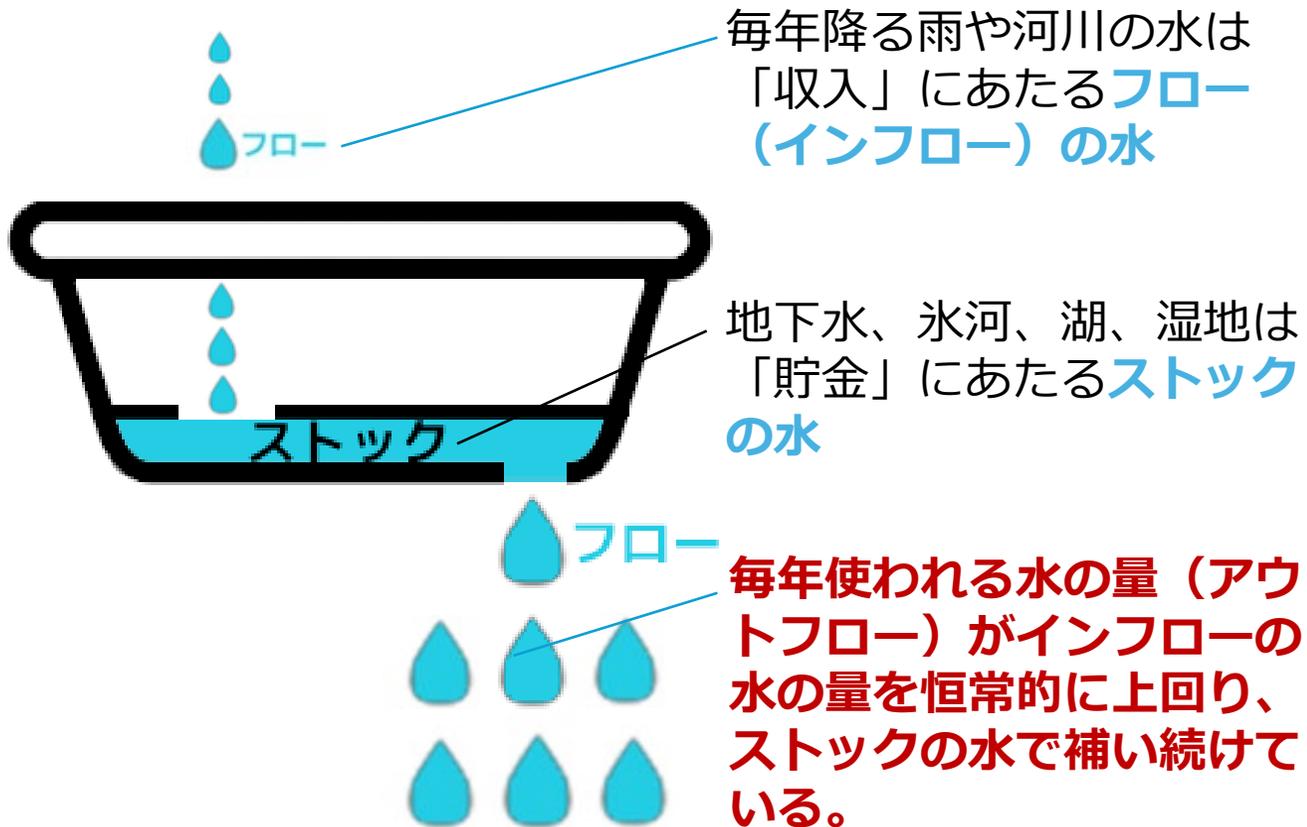
NSC定例勉強会／橋本淳司

## 氷河減少の影響

- 淡水の供給量の変化
- 地盤災害（地滑りや氷河湖決壊洪水など）の増加
- 海面上昇の加速

8

# 世界は「水破産」の時代に入った 国連大学、2026年1月20日



課題：森林、湿地、地下水、氷河などの水供給源が元に戻りにくくなっている。

報告書での対策：

- ①水利用を「見える化」する監視技術の導入
- ②汚染防止
- ③自然環境の回復
- ④「元に戻る」ことを前提にしない新しい現実への適応

報告書は、主に水資源分野の国際学術誌に掲載された論文、“Water Bankruptcy: A Formal Definition and Diagnostic Framework for Human-Water Systems Beyond Crisis”（『水破産：危機を超えた人間-水システムの正式な定義と診断フレームワーク』／筆者訳）などを基にまとめられた。NSC定例勉強会／橋本淳司

# 『水関連の紛争：水紛争年表からの定義、データ、傾向』（Gleick & Shimabuku 2023、Water Conflict Chronology）①

Water Conflict Chronology（WCC）をもとに2000年～2022年の水紛争、衝突、暴力事件を分析。

## • 増加傾向

- 2010年代後半以降増加。
- 直近10年の報告件数は過去と比べ4倍。（報道環境の改善による影響も含まれる）

## • 3分類

- **Casualty（水が紛争の「犠牲」になる）** = 水道・ダム・浄水場などが攻撃対象になる、水インフラや水資源が被害を受ける / **624件**（一貫して増加、全体で最も多い）
- **Trigger（水が紛争の「引き金」に）** = 水不足・水へのアクセス・支配をめぐる争い、料金・配分・土地利用などを原因とする対立 / **581件**（2012年以降明確に増加）
- **Weapon（水を紛争の「武器」に）** = 水や水インフラを意図的に操作・破壊、断水、毒物混入、洪水の誘発など / **187件**（相対的に減少）

※ 1つの事件が複数カテゴリに該当する場合、重複してカウント

## 『水関連の紛争：水紛争年表からの定義、データ、傾向』（Gleick & Shimabuku 2023、Water Conflict Chronology）②

Water Conflict Chronology（WCC）をもとに2000年～2022年の水紛争、衝突、暴力事件を分析。

### • 地域分析

- 中東（シリア、イラク、イエメン）では水インフラへの攻撃（犠牲）が多発
- サハラ以南アフリカ（特にサヘル地域）では農耕民と遊牧民の衝突、水場・放牧地をめぐる暴力（引き金）が多発。
- インドなど南アジアでは、干ばつにともなう水紛争（引き金）も増加。

### • 今後：水紛争リスクは増加の可能性

- 要因①：人口増加と経済成長（都市化、産業の拡大により限られた水資源への利用が集中。多様なステークホルダー間で利用をめぐる緊張）
- 要因②：気候変動（干ばつの長期化、洪水の激甚化により、水の「不確実性」が高まる）
- 要因③：ガバナンスの脆弱さ（マネジメントの不備、不平等がある社会では、水不足がそのまま暴力に転化しやすい）

# 2050年に50億人が水不足に直面

- 2050年の世界人口は97億人（「世界人口白書2023」）
- そのうちの約半数にあたる50億人が水不足に直面（「世界気象機関2023年」）



地理的、時間的偏在

人間の大量使用、汚染

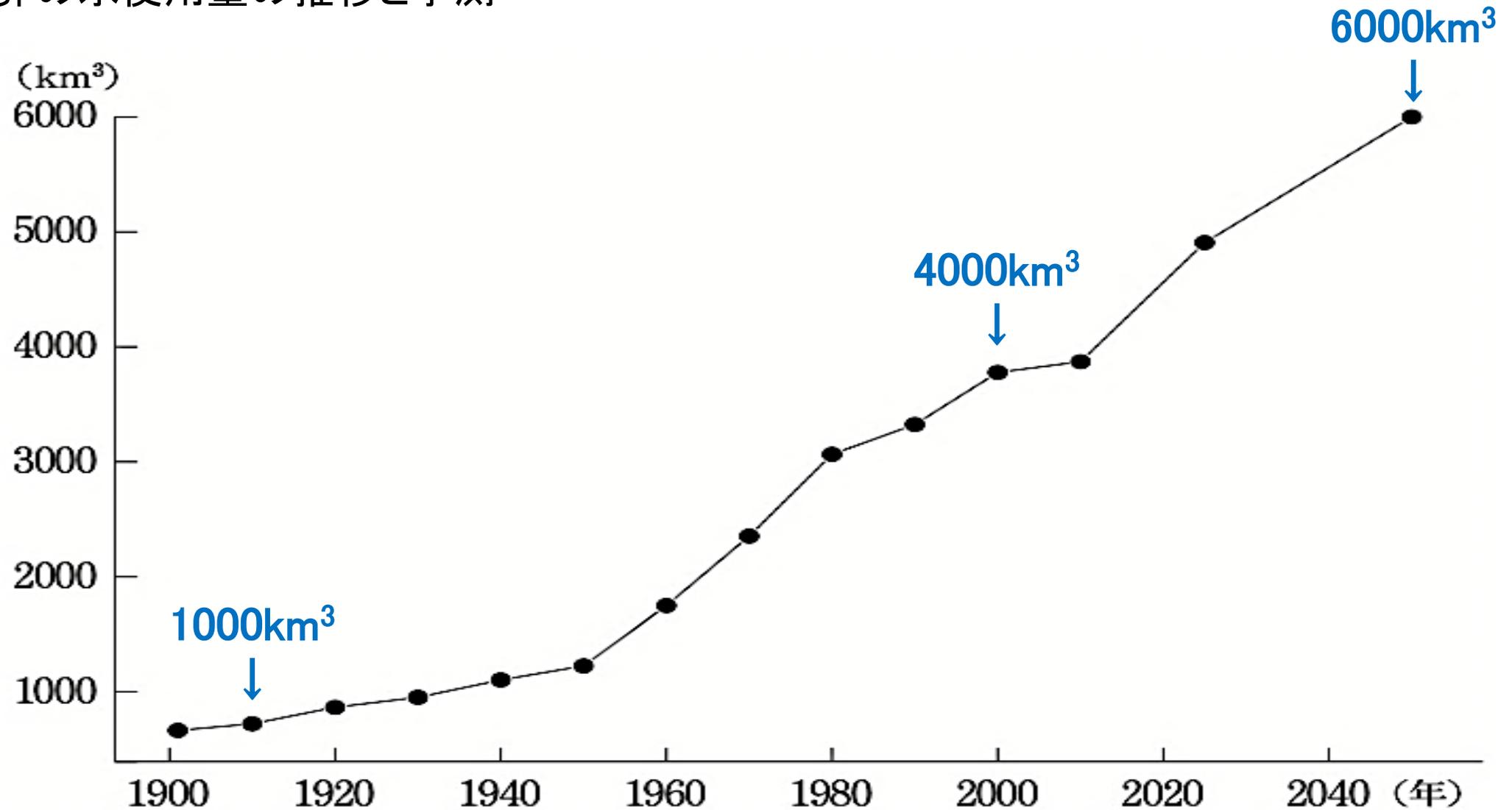
気候変動にともなう  
地球温暖化

水の多い地域  
→気温上昇  
→水の蒸発  
→豪雨



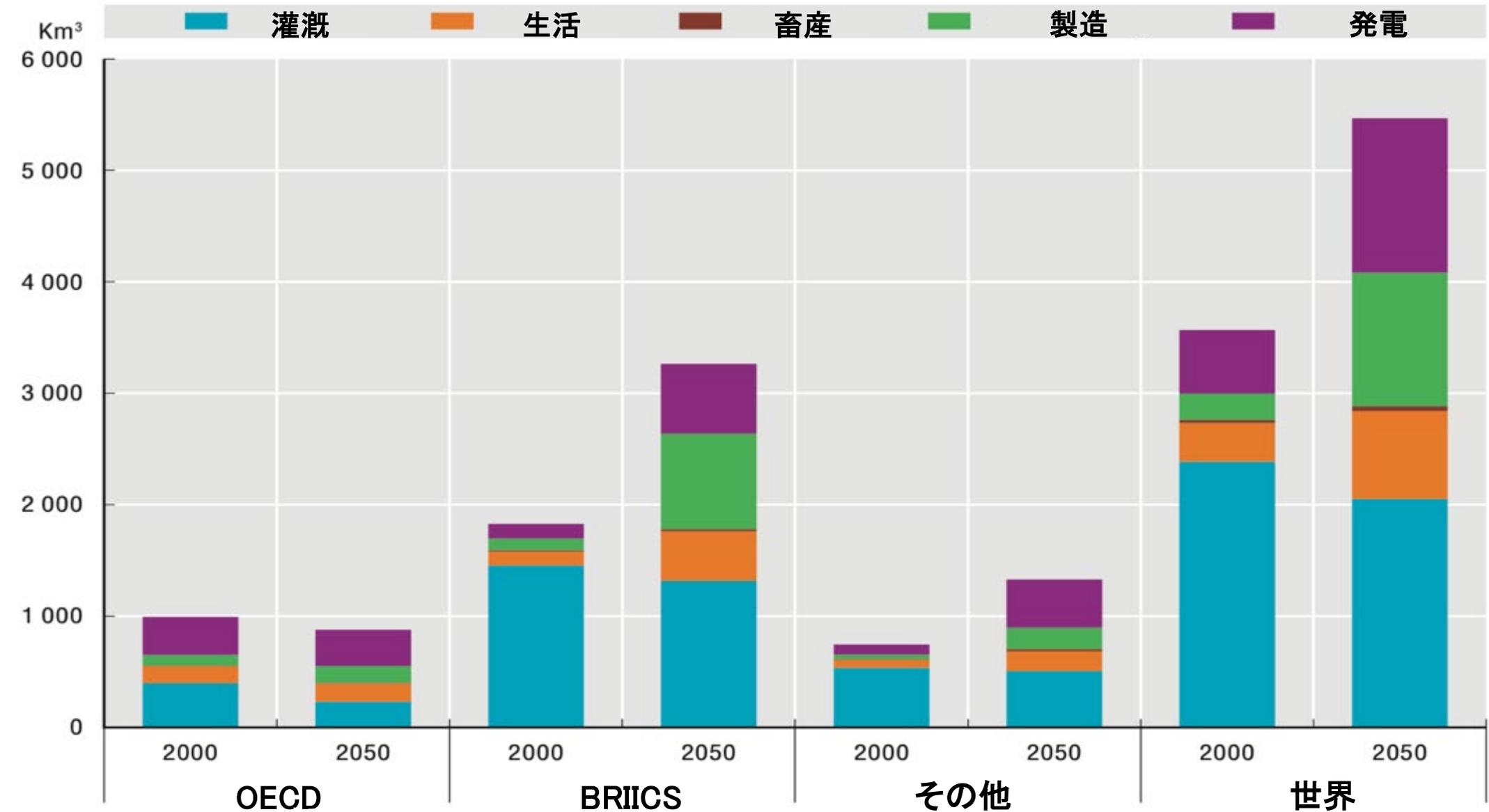
水の少ない地域  
→気温上昇  
→水の蒸発  
→干ばつ

# 世界の水使用量の推移と予測



「Our World in Data」 「OECD Reassessing the projections of the World Water Development Report」などをもとに作成

# 世界の水需要予測とその内訳(2000-2050年)



# デジタル社会と水：鉱物資源の精鉱



銅の精製過程

- 銅：電気をよく通す金属として、テクノロジー企業が提供するあらゆる製品やサービスの神経回路を形成。（再生可能エネルギーの送電網、EVのモーターやバッテリー、クラウドサービスを動かすサーバーの内部配線など）
- 銅鉱石に含まれる銅の割合は0.4～0.6%程度。
- **選鉱に大量の水が必要。**
- チリ・エスコンディータ鉱山では、約180キロメートル離れた海岸都市アントファガスタ近郊で海水淡水化を行い、標高約3200メートルの鉱山までパイプラインで水を輸送。

# デジタル社会と水：半導体製造にかかる水

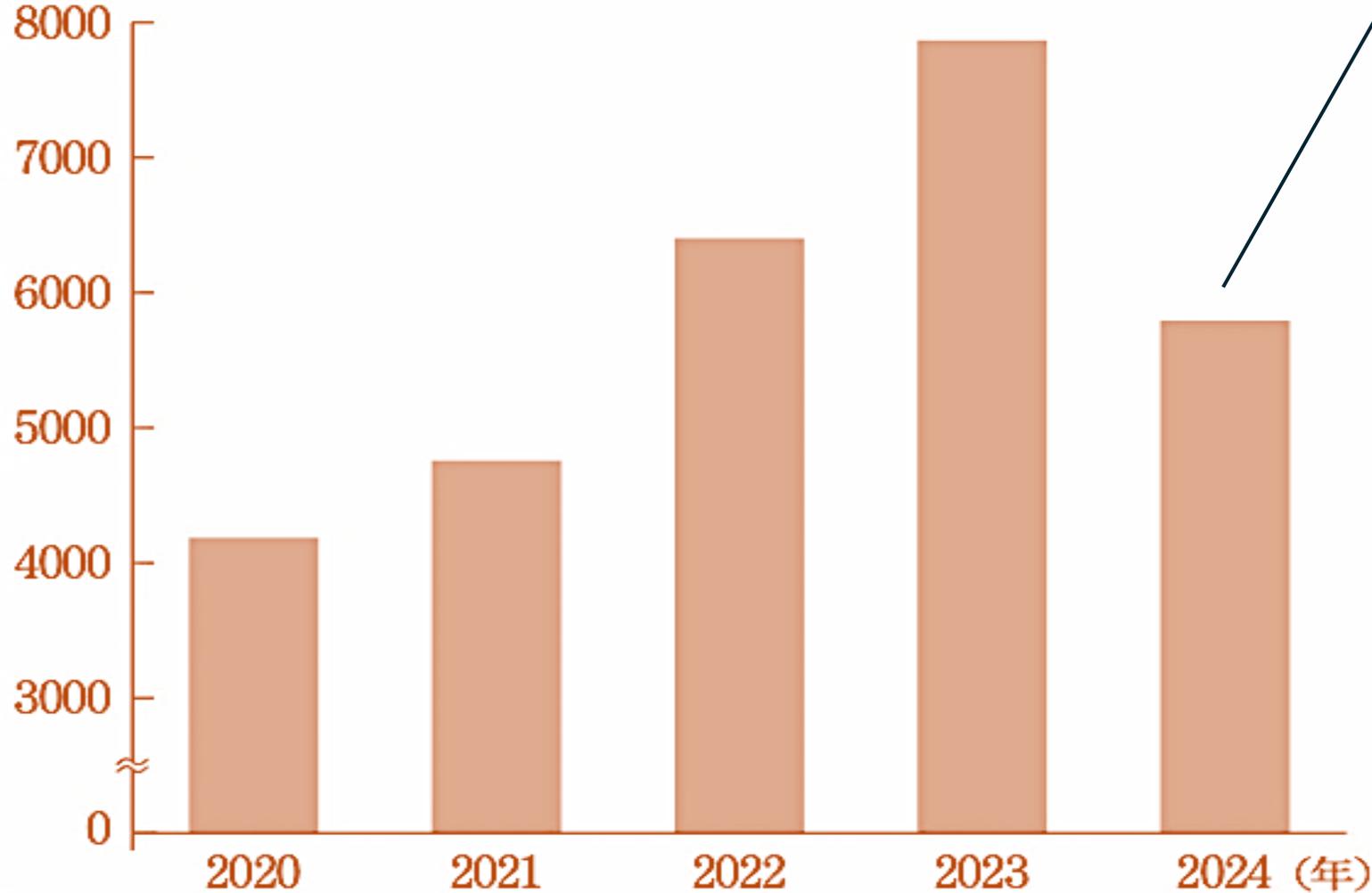


TSMCの半導体工場（熊本県）

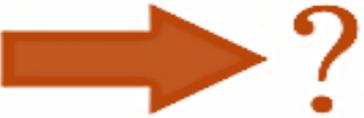
- スマートフォンやパソコン、自動車、冷蔵庫、エアコン、給湯器などで半導体は不可欠。新型コロナウイルス禍では半導体の供給が滞った結果、自動車メーカーは減産を余儀なくされた
- 半導体製造では、回路形成のたびに洗浄が行われ、純度の高い「超純水」が大量に必要
- 台湾の半導体大手・TSMCの報告書（2023年）**：台湾の3つの科学工業団地で、1日あたり約16万立法メートルの水を使用（2022年）。日本における1人1日あたりの平均生活用水使用量（221リットル/東京都水道局/2023年）と比較すると、人口約70万人規模の都市の1日分の生活用水に匹敵。

# マイクロソフト社の水消費量の推移

(1000m<sup>3</sup>)

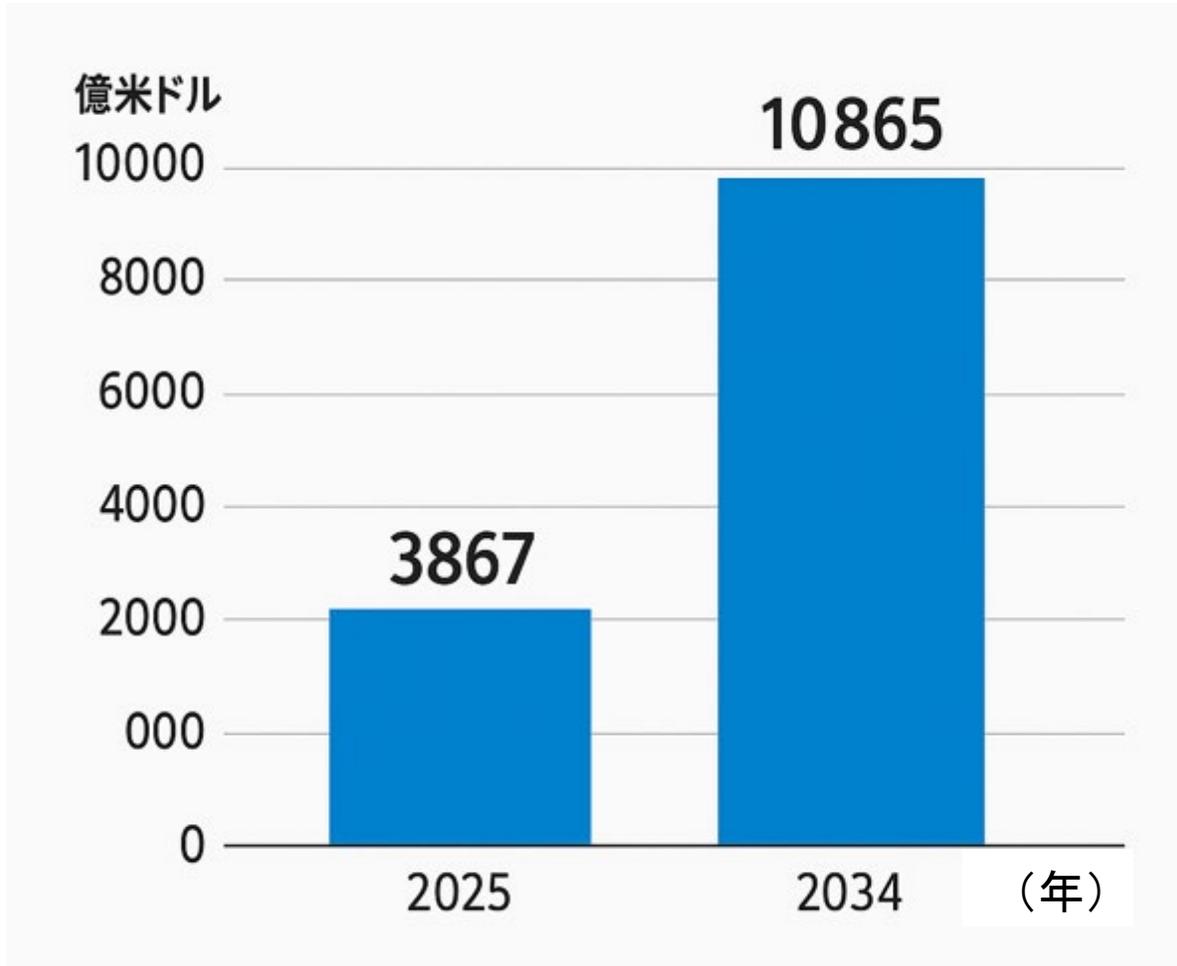


- 使用量の不明の拠点の計測方法の変更
- 水不足地域の拠点が全拠点の4分の1



「Microsoft 2025 Environmental Sustainability Report (2025)」をもとに作成

# 世界のデータセンター市場規模予測



プレセデンス・リサーチ

ハイパースケール型は大量の電力を消費するだけでなく、冷却のために大量の水を使用するという特徴。

# デジタル社会と水：電力を通じた間接的な水使用

- 世界のエネルギー部門による水使用量（IEAのシナリオ分析）
  - 2021年 3700億立方メートル
  - 2030年 4000億立方メートル
- 増加の要因
  - 原子力発電所の冷却水
  - バイオ燃料栽培の灌漑用水
- 懸念事項
  - 気温の高い場所でのデータセンター建設
- 企業には水と電力の「ダブルトラック」消費を見える化する努力が求められる

# セクター間で高まる水の緊張

都市、農業、企業、先住民など同じ流域を共有する多様な主体のあいだでの水をめぐる緊張

## 事例：米アリゾナ州

- テスラ社が検討しているバッテリー工場の建設計画。
- 工場の運転に年間数万立方メートルの水が必要
- 農業関係者や住民から反発

## 事例：チリ中部バルパライソ州

- アボガド農園による地下水および河川水の過剰取水
- 豪州資本の大規模農園によって水路の堰き止め、井戸の掘削
- チリ水資源局が65本以上の違法な取水パイプを確認
- デンマークの調査期間 Danwattchが調査報告

## 事例：米アリゾナ州

- サウジアラビア資本の農業企業フォンドモンテが地下水を大量に使用してアルファルファを栽培、本国に輸出
- 米国では水資源の輸出が法律で制限されているが「土地を所有すれば水が使える」。州法の改正へ

## 2. 企業に求められること

# 水のサステナビリティ

経済システムと水

生態系と水循環

社会の公正と水アクセス

水は、経済を支え、生態系に依存し、社会の公正を左右する。3要素は流域という空間で相互に影響しあう。

## ●経済システムと水

水はあらゆる生産活動を支える。産業が水に依存する構造、水利用が環境や地域社会に与える影響、そして経済活動における持続可能な水利用を考える。

## ●生態系と水循環

水は自然の循環のなかで、森林、湿地、河川、地下水などの自然生態系、水田や畑地などの農地のような人工生態系と相互に作用する。人間活動が水循環に与える影響（枯渇・汚染など）と、それを回復・保全するための流域単位での管理を考える。

## ●社会の公正と水アクセス

安全な水へのアクセスは、人間の健康・教育・生活の基盤であり、社会的公正の基本である。水インフラの整備・老朽化、地域間・世代間の格差、流域内外の利害調整などを通じて、公正で持続可能な水ガバナンスを考える。

# 「TNFD最終提言v1.0」

- 「TNFD最終提言v1.0」（2023年、TNFD＜Taskforce on Nature-related Financial Disclosures:自然関連財務情報開示タスクフォース＞）
- 事業活動と自然の**接点**の分析：「水流と水質調整」
- グローバル中核開示指標：「水不足の地域からの取水量と消費量」「廃水排出量」



# CDP(Carbon Disclosure Project)

- CDP(Carbon Disclosure Project/グローバル主要企業の環境活動評価における主要格付指標) による質問
- 事業リスクや機会、ガバナンス、事業戦略
- CDP Water 重大な水関連のリスクと機会が特定された施設情報、自社の事業範囲およびバリューチェーン上流においてリスクと機会を特定した施設の数、施設別の取水、排水量

**気候変動**

- 気候変動のリスク管理
- リスクと機会
- GHG排出量と目標値
- 石油・ガス、電気事業、自動車、食料・飲料・タバコ、金融サービスなどセクター別の設問
- サプライチェーンプログラム など

**水セキュリティ**

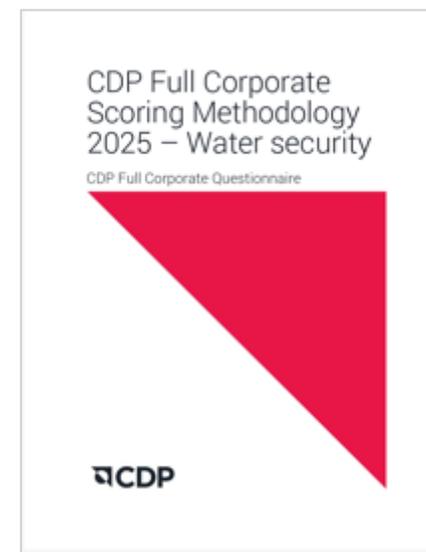
- 水関連のリスク評価
- 水会計
- 水に関するガバナンス、戦略、コンプライアンス、目標と取り組み

※水を大量に消費するセクターの企業が対象

**フォレスト**

- 森林減少リスク
- 森林減少に対する方針と目標
- サプライチェーンへの関与
- トレーサビリティと認証

※4つの森林リスクモデティに注目（木材、畜産品、パーム油、大豆）



# 「水スチュワードシップ」（Ceres/米国のESD投資促進NGO）

- “Valuing Water Finance Initiative”（2022年）
  - 地下水の枯渇、金属・プラスチックによる水汚染、水の転用や移動、富栄養化など産業がもたらす水関連の脅威
  - 金融機関や機関投資家が直面するシステミックリスク
  - 水資源に深刻な影響をもたらす産業セクター：食品、飲料、アパレル、テック

|        |  |  |   |
|--------|--|--|---|
| 企業への期待 | <b>①水量</b><br>バリューチェーン全体で水不足地域における水利用可能性に悪影響を与えない                                  | <b>②水質</b><br>バリューチェーン全体で水質に悪影響を与えない                           | <b>③生態系保護</b><br>淡水供給や水性生物多様性にとって重要な自然生態系の転換に関与せず、劣化した生息地の回復に積極的に取り組む |
|        | <b>④水と衛生へのアクセス</b><br>バリューチェーン全体でWASHの普遍的・公平なアクセス達成に寄与し、コミュニティの社会・経済・生態学的レジリエンスに貢献 | <b>⑤取締役会による監督</b><br>取締役会と上級管理職による水管理の取り組みを監督<br>NSC定例勉強会／橋本淳司 | <b>⑥公共政策への関与</b><br>すべての公共政策への関与とロビー活動を持続可能な水資源管理の成果と整合させる            |

# UNGC 「The CEO Water Mandate」

- UNGC 「The CEO Water Mandate」 (2007年～) 「気候変動リスクにレジリエンとな飲料水・衛生施設・衛生管理へのアクセスを従業員と労働者に対して確保することが企業利益に寄与する」
- Water Resilience Coalition (2022年～) 「2050年までに世界の淡水資源を保護・再生する」 「企業単独での取り組みだけでなくはなく流域単位でのコレクティブ・アクションを重視」

# WBCSD

- WBCSD（1995年～）環境・社会課題に対する経済化の課題共有や指針検討。
- 「水に関するCEOガイド」（水が企業利益に及ぼす影響やリスク、事業機会を整理）
- “Wastewater Zero Commitment:Guidance document”（産業由来の廃水ゼロに向けた企業のコミットメント、汚染ゼロ、淡水への影響ゼロ、低炭素処理を整理）
- “Water Stewardship track”（2025年）複数の水関連の指標群の整合、バリューチェーン全体で評価できる指標・目標の特定

# 3. 自社にとっての水リスクは何か



## 水リスク

- 水に関連するよくない事象を経験する確率（可能性）。拠点、セクター、組織によってリスクが異なるため定義や解釈も異なる。組織に同時にリスクを生じさせる。



## 水ストレス

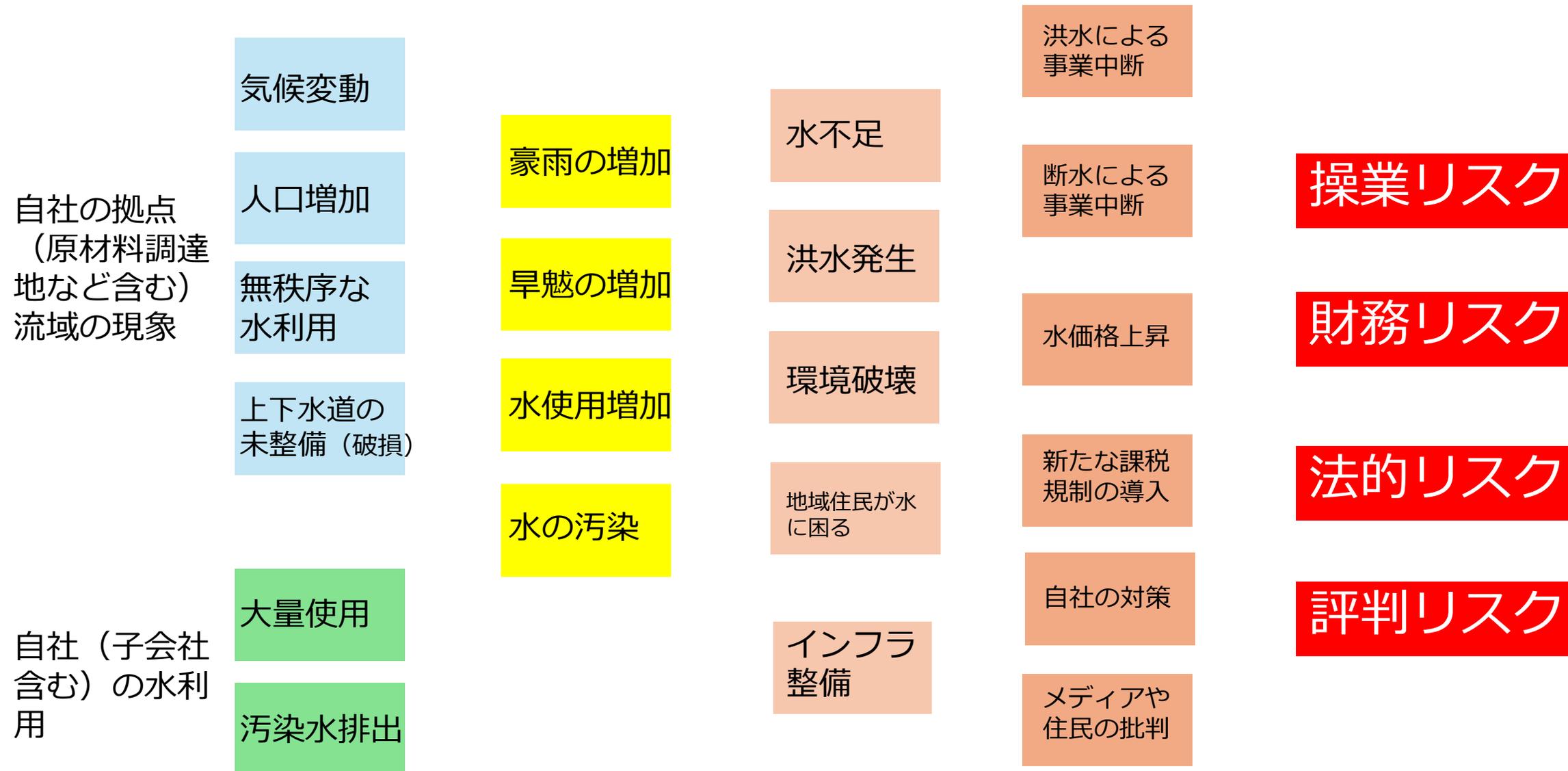
- 水不足だけでなく、水質、水へのアクセスなども含む広い概念。汚染された水が豊富にある地域は、水不足ではないが水ストレスは高い。



## 水不足

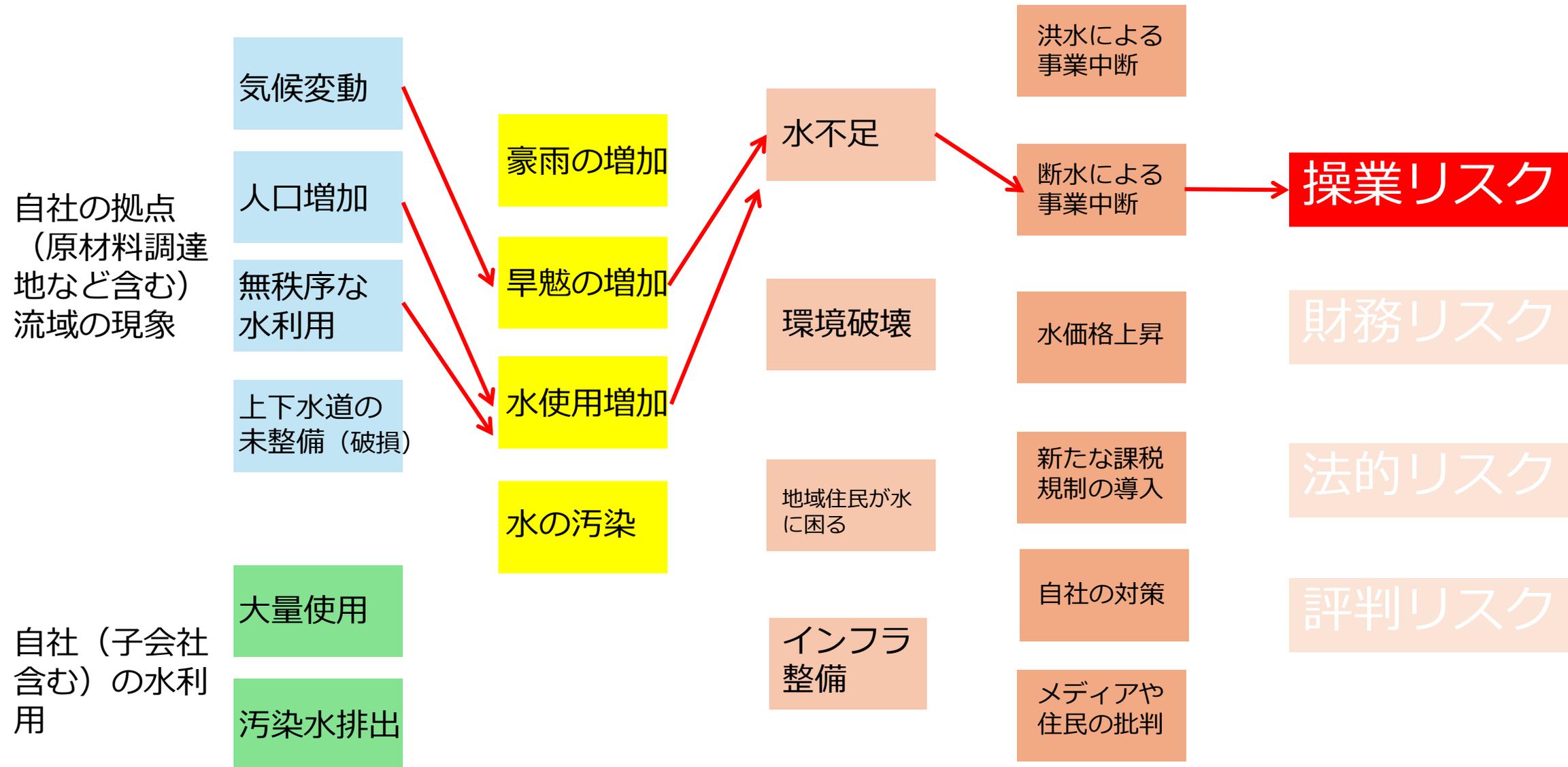
- 特定地域の水資源の物理的な量が、人間の消費量より少ないこと（人間の水利用がない地域では「不足」ではなく「乾燥」）

# 自社の水リスクはどこに？



# 自社の水リスクはどこに？

渇水・断水、他者の無秩序な水利用により  
操業リスクを受けるケース



# 水ストレスがもたらす 製造リスク：インド

- **水不足の集中地域**

インドの主要自動車製造クラスター（プネー、ムンバイ、ナシック、チェンナイなど）は、極端な暑さ、干ばつ、降雨不足、地下水位低下といった多層的な気候リスクにさらされている（WRI Indiaの地理分析）。

- **チェンナイの深刻な水危機（2019年）**

4つの主要貯水池が干上がり、「Day Zero（水がほとんど枯渇する日）」が宣言されるほどの状況に陥った。ホテルや企業が営業停止に陥った他、自動車工場も深刻な影響を受けた。

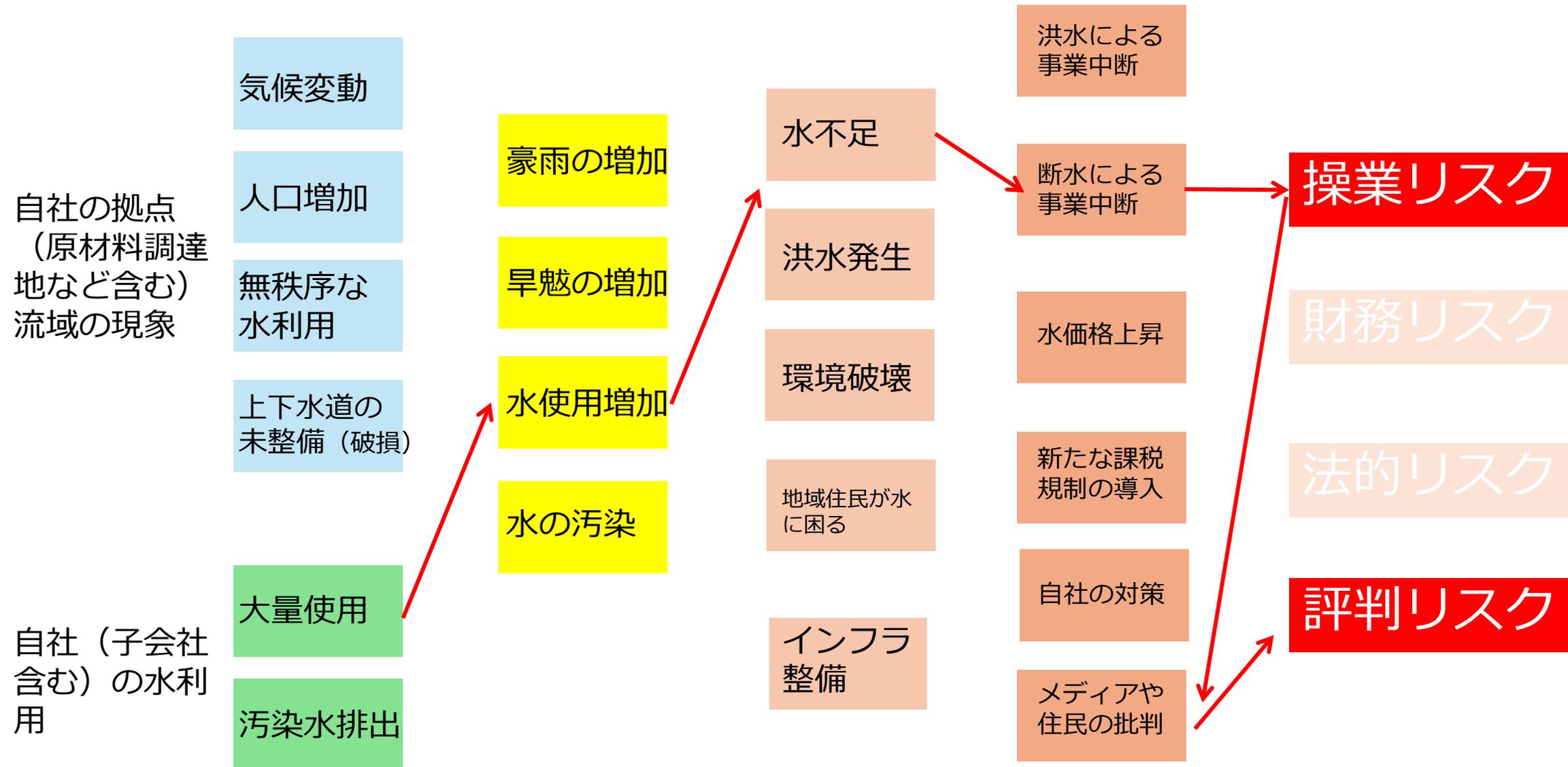
- **産業界全体への波及**

急速な都市化・工業化により、水需要が供給を上回りつつある。これは社会的不安・経済混乱につながる可能性があり、産業界の経営基盤を揺るがす



# 自社の水リスクはどこに？

自社の無秩序な水利用により他者に操業リスクを与え、評判リスクを受けるケース



# 自社の水リスクはどこに？

洪水による操業リスクを受けるケース

自社の拠点  
(原材料調達地など含む)  
流域の現象

気候変動

人口増加

無秩序な  
水利用

上下水道の  
未整備 (破損)

大量使用

汚染水排出

豪雨の増加

旱魃の増加

水使用増加

水の汚染

水不足

洪水発生

環境破壊

地域住民が水に困る

インフラ整備

洪水による  
事業中断

断水による  
事業中断

水価格上昇

新たな課税  
規制の導入

自社の対策

メディアや  
住民の批判

操業リスク

財務リスク

法的リスク

評判リスク

自社 (子会社  
含む) の水利用

# 特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律

(通称：流域治水関連法／令和3年4月28日可決成立、7月15日施行)

## 改正概要

- ①流域治水の計画、体制の強化
- ②氾濫をできるだけ防ぐための対策
- ③被害対象を減少させるための対策
- ④被害の軽減、早期復旧、復興のための対策



「流域治水のイメージ」(国土交通省HPより)

集水域、氾濫域、河川区域を明確にし、流域全体で水害被害を軽減する

# 自社の水リスクはどこに？

洪水対策による財務リスクを受ける

自社の拠点  
(原材料調達地など含む)  
流域の現象

気候変動

人口増加

無秩序な水利用

上下水道の未整備(破損)

大量使用

汚染水排出

豪雨の増加

旱魃の増加

水使用増加

水の汚染

水不足

洪水発生

環境破壊

地域住民が水に困る

インフラ整備

洪水による事業中断

断水による事業中断

水価格上昇

新たな課税規制の導入

自社の対策

メディアや住民の批判

操業リスク

財務リスク

法的リスク

評判リスク

自社(子会社含む)の水利用

# 自社の水リスクはどこに？

水価格上昇による財務リスクを受ける

自社の拠点  
(原材料調達地など含む)  
流域の現象

気候変動

人口増加

無秩序な水利用

上下水道の未整備(破損)

大量使用

汚染水排出

豪雨の増加

旱魃の増加

水使用増加

水の汚染

水不足

洪水発生

環境破壊

地域住民が水に困る

インフラ整備

洪水による事業中断

断水による事業中断

水価格上昇

新たな課税規制の導入

自社の対策

メディアや住民の批判

操業リスク

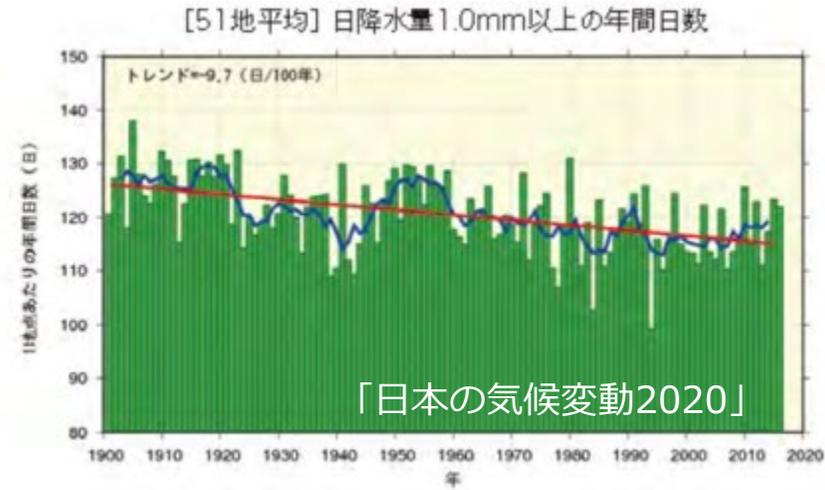
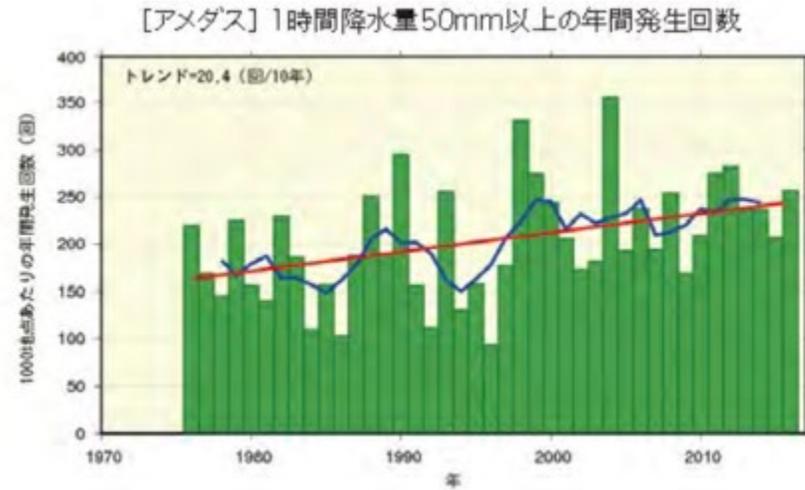
財務リスク

法的リスク

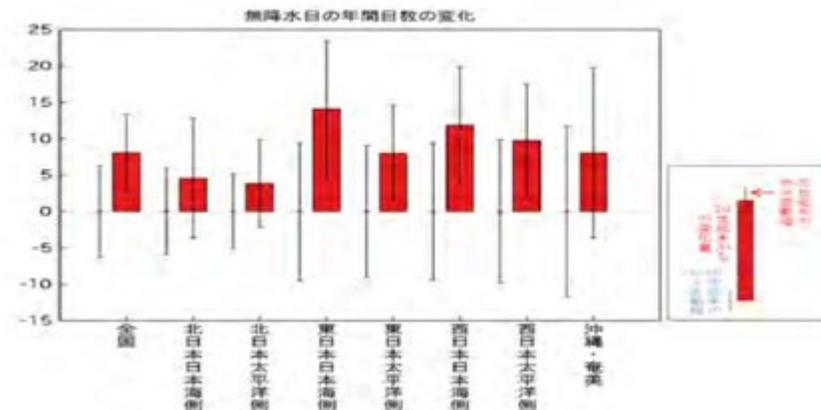
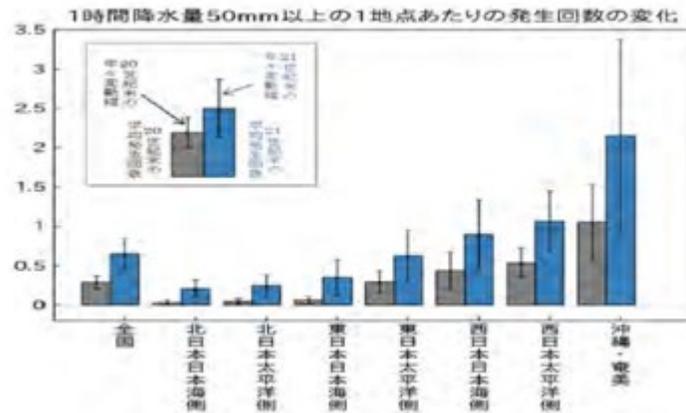
評判リスク

# 雨の降り方の変化

強い雨が降る日は増加、雨が降る日数は減少



すべての地域で強い雨降る頻度が上がり、降水日数は減少



気象庁「地球温暖化予測情報 第9巻」

# 2046年の水道料金予測

平均的な使用水量（20立方メートル）の場合の月料金

全国平均 4,895円  
(現在3,317円 48%増)

料金の高い水道事業者

1. 福島県鏡石町 25,837円  
(現在4,627円 458%増)
2. 青森県津軽広域水道企業団 24,620円  
(現在5,929円 315%増)
3. 宮城県南三陸町 18,893円  
(現在4,070円 364%増)
4. 長野県木曾町 18,642円  
(現在3,960円 371%増)
5. 千葉県大多喜町 17,612円  
(現在4,994円 253%増)

料金の低い水道事業者

1. 静岡県長泉町 1,266円  
(現在1,150円 10%増)
2. 神奈川県中井町 1,485円  
(現在1485円 改定なし)
3. 兵庫県赤穂市 1,582円  
(現在869円 82%増)
4. 神奈川県松田町 1,616円  
(現在1485円 9%増)
5. 和歌山県白浜町 1,743円  
(現在1529円 14%増)

# 自社の水リスクはどこに？

水使用増加による法的リスクを受ける

自社の拠点  
(原材料調達地など含む)  
流域の現象

気候変動

人口増加

無秩序な水利用

上下水道の未整備(破損)

大量使用

汚染水排出

豪雨の増加

旱魃の増加

水使用増加

水の汚染

水不足

洪水発生

環境破壊

地域住民が水に困る

インフラ整備

洪水による事業中断

断水による事業中断

水価格上昇

新たな課税規制の導入

自社の対策

メディアや住民の批判

操業リスク

財務リスク

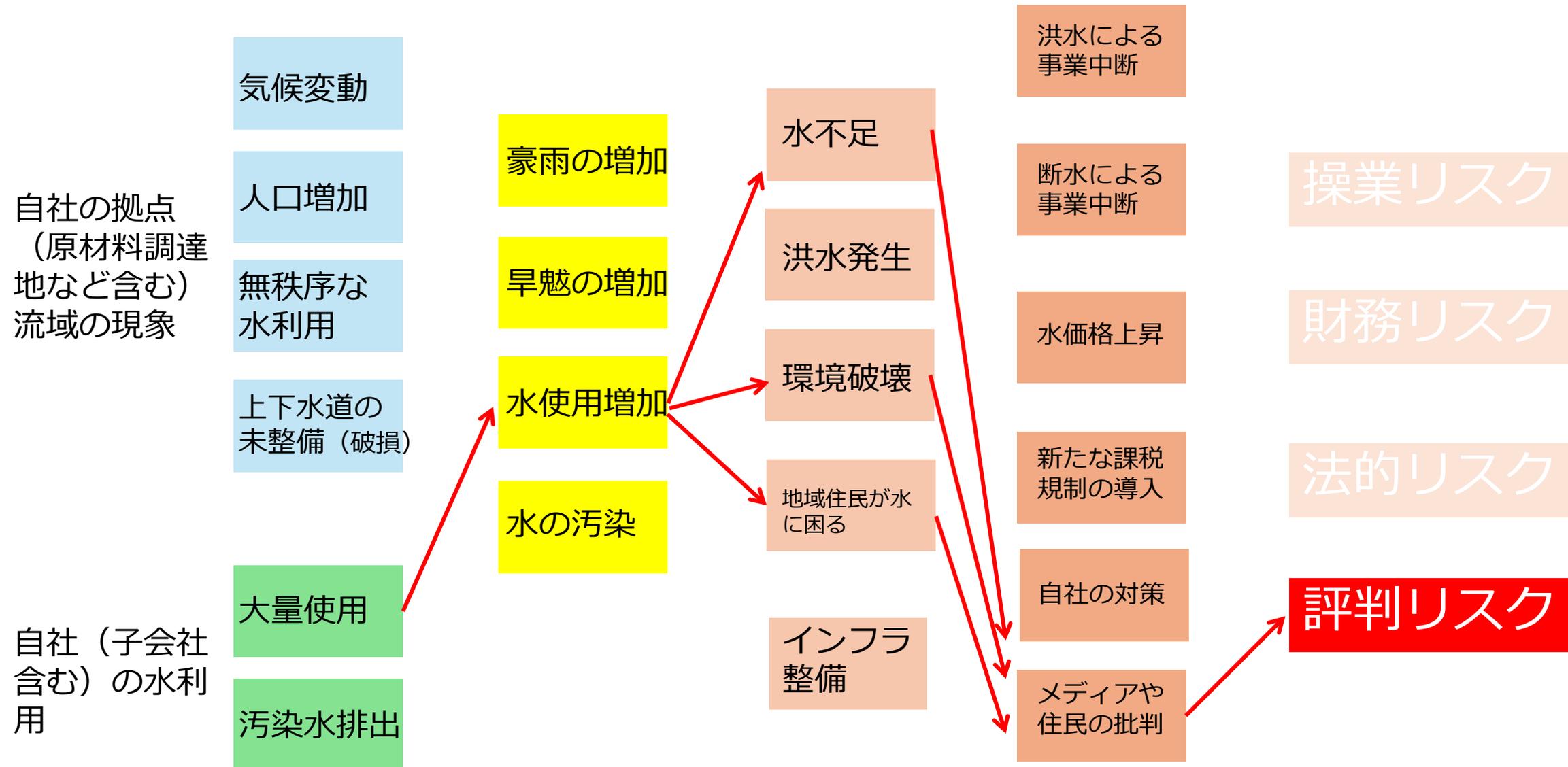
法的リスク

評判リスク

自社(子会社含む)の水利用

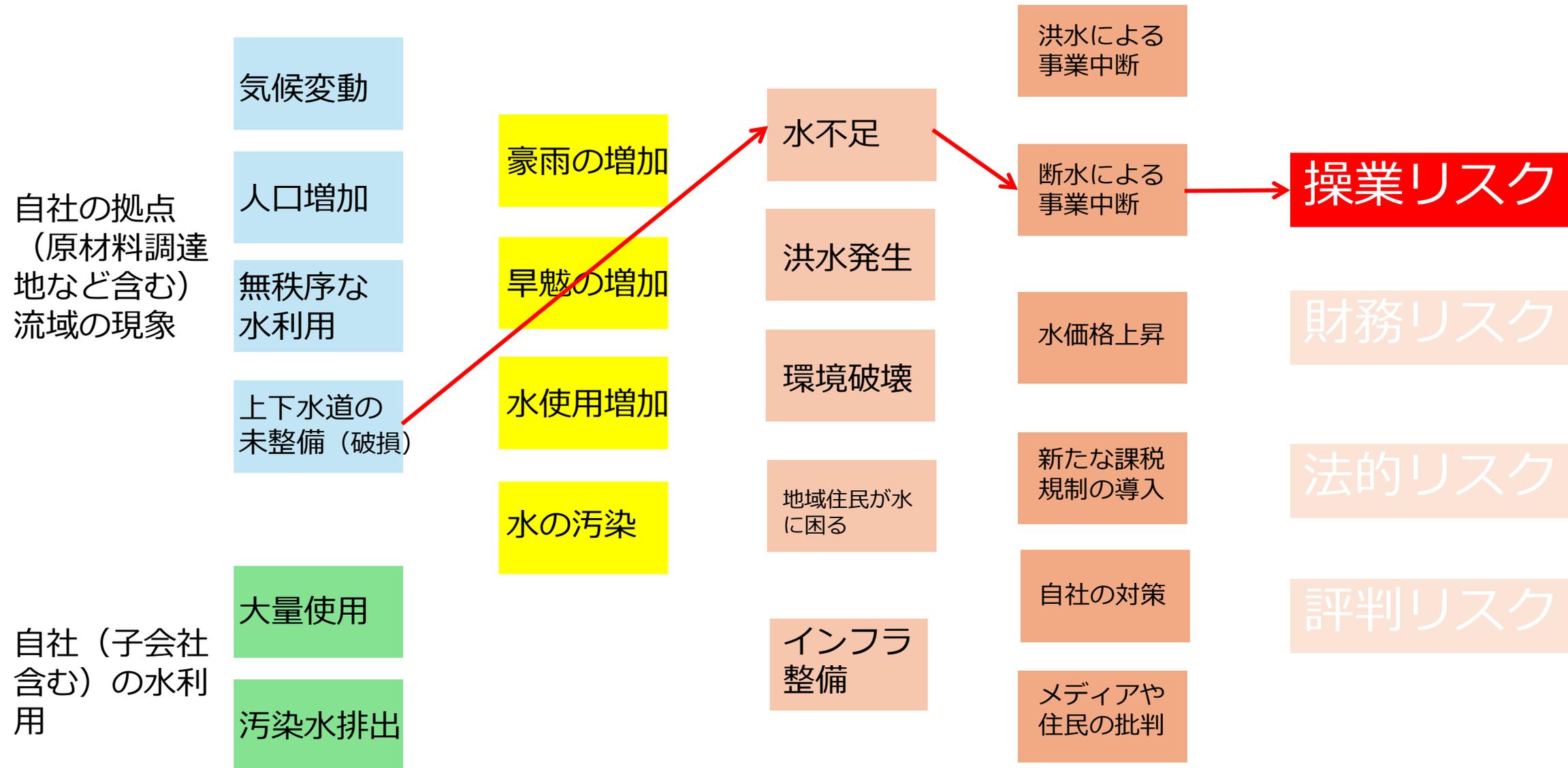
# 自社の水リスクはどこに？

地域の水を枯らしたと疑われ評判リスクを受ける



# 自社の水リスクはどこに？

水インフラが損壊することによる操業リスク



# インフラ老朽化による水停止： トヨタ本社工場が工業用水不足 で一部停止（2022年）

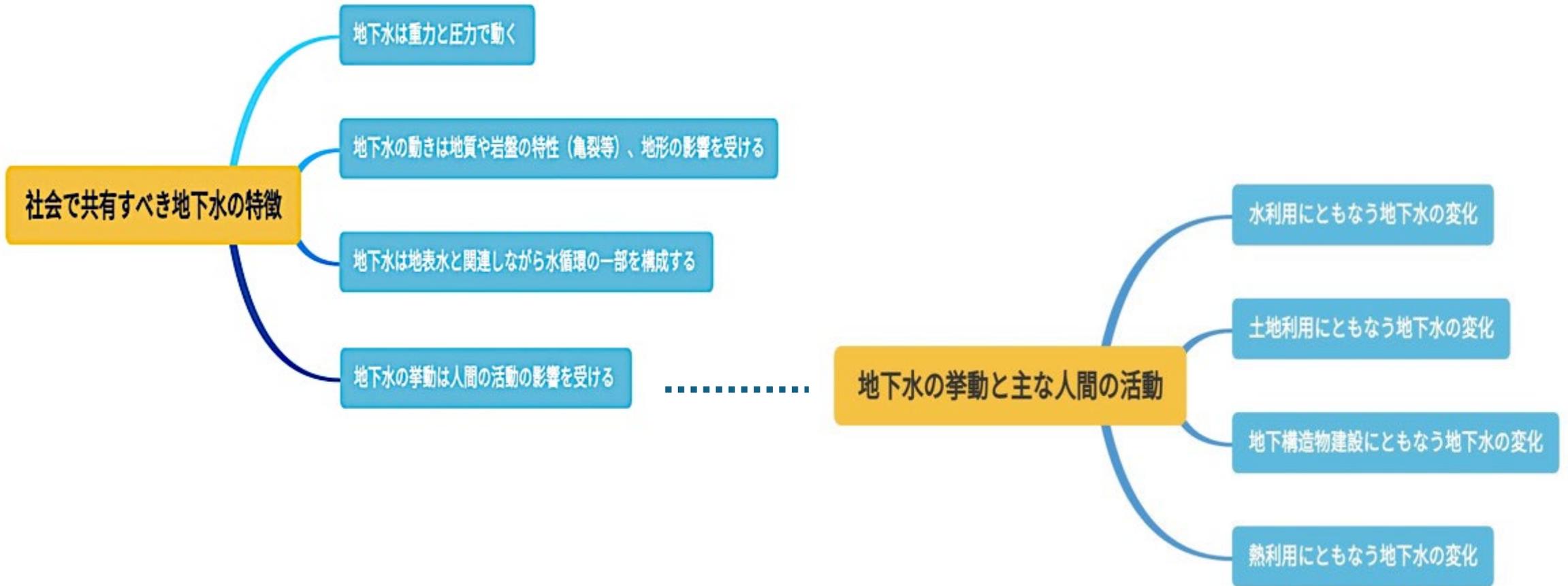
- **発端**：豊田市の矢作川に設けられた取水施設「明治用水頭首工」で大規模な漏水が発生。近隣のトヨタ自動車および関連企業が取水できなくなる。
- **影響**：
  - トヨタ本社工場では、水が使えず車体洗浄や冷却に支障が出たため、**2022年5月18日の夕方から一部ラインを停止**。
  - **井戸水を利用して工場を稼働させながら、従業員に在宅勤務を推奨し、節水も呼びかけた**。
  - トヨタ関連企業である豊田自動織機の大府市の工場でも、トヨタからの部品供給が滞ったため、**2ラインが翌朝から停止**に。影響台数は**約600台分**。



# なぜ水は“見えない資源”なのか

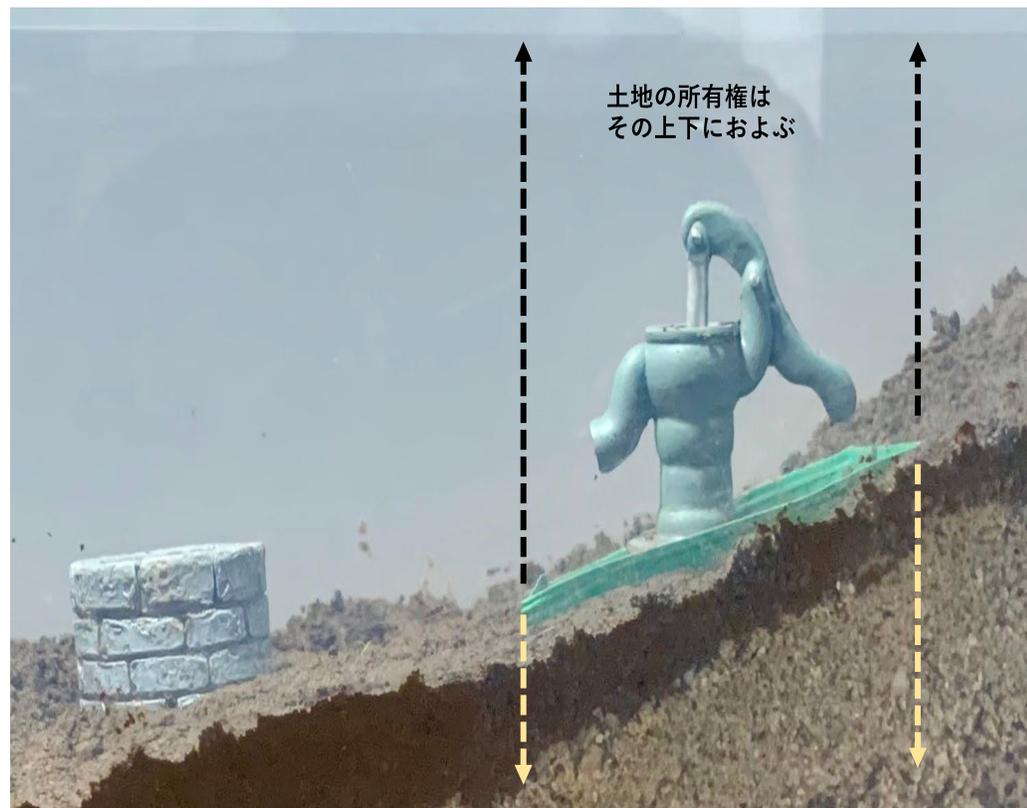
- **コスト面で目立たない**：水道代や井戸水利用はエネルギーコストに比べ安いため、経営上の「リスク」として扱われにくい。
- **インフラの安定供給への依存**：日本では水道が安定しているため、渇水や供給制限のリスクを軽視しがち。
- **グローバルな影響の不可視性**：**実際のリスクは海外サプライチェーン**（鉱物精製・部品製造）に潜んでいるが、現場からは見えにくい。

# 地下水について社会で共有すべきこと

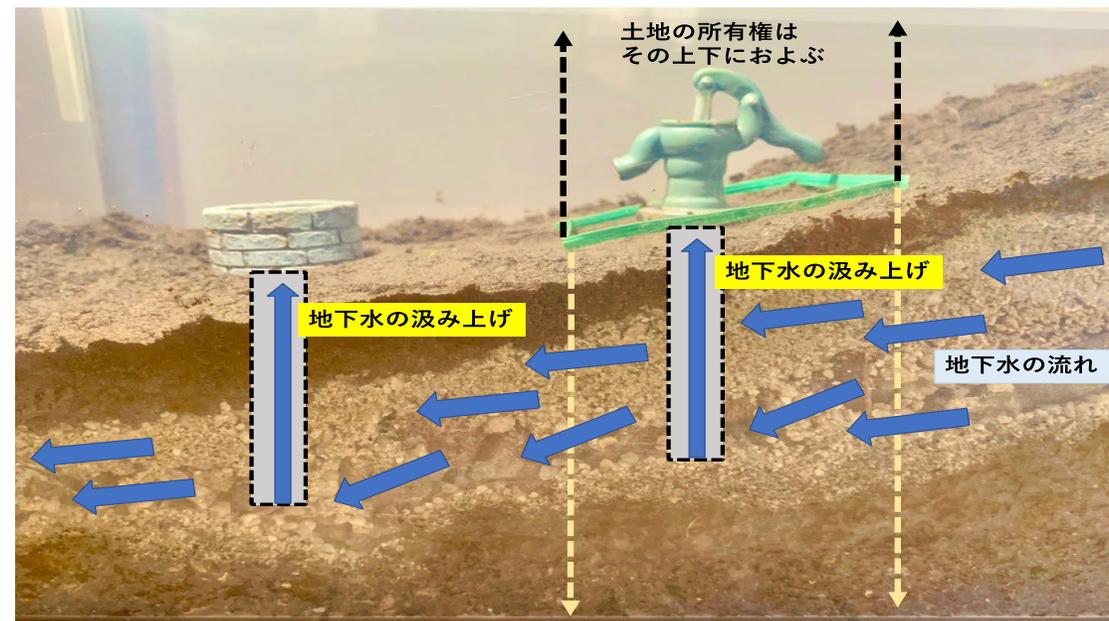


「水みんフラ —水を軸とした社会共通基盤の新戦略—」  
<https://www.tkfd.or.jp/research/detail.php?id=3989>

# 地下水についてのルール



**民法207条**には「土地の所有権は法令の制限内において、その土地の上下に及ぶ」と定められ、土地所有者に地下水利用の権利が帰属すると考えられる。



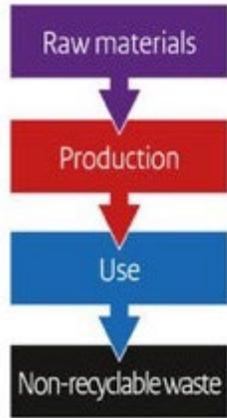
**水循環基本法**（2014年3月成立）は、水を「国民共有の貴重な財産であり、公共性が高いもの」と位置づけ。2021年には地下水の位置づけを明確にする改正が行われた。国及び地方公共団体の責務とされる水循環に関する施策に「地下水の適正な保全及び利用に関する施策」が含まれると明示。

# 企業のアクション

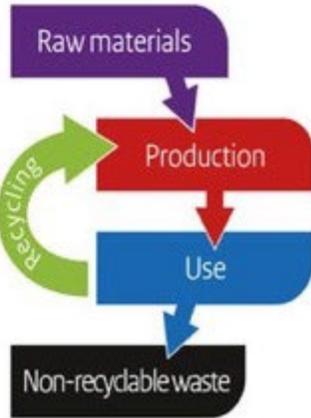
- **短期**：拠点工場ごとの水使用量や水の流れ（取水・配水・排水）を“見える化”
- **中期**：節水・再利用の仕組み導入、目標設定
- **長期**：地域と協働し「水ポジティブ工場」をめざす

# Thank you これからどのように水をつかうべきかを考えましょう

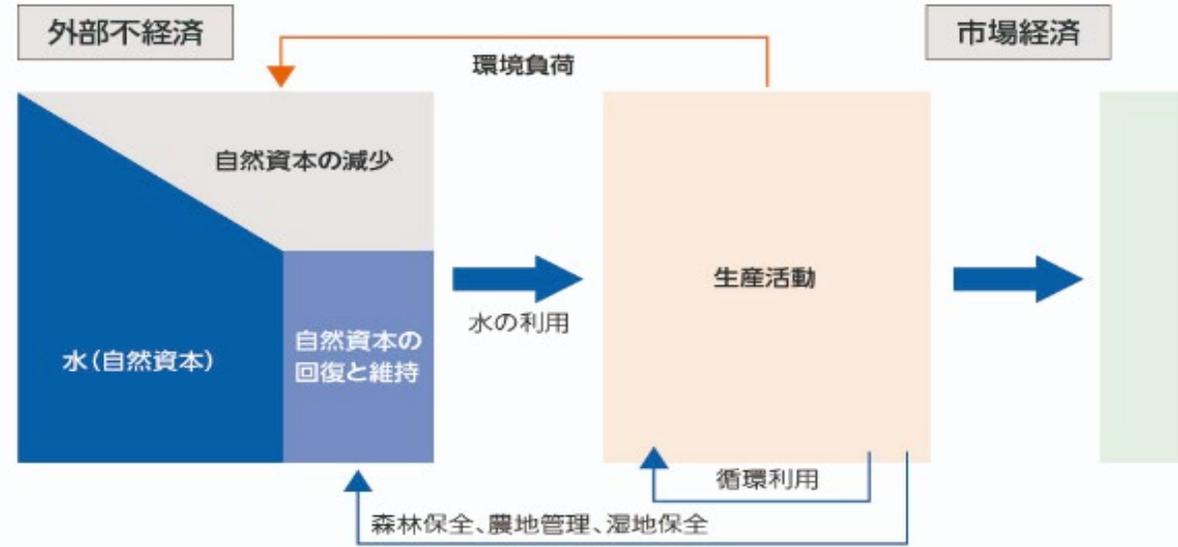
Linear economy



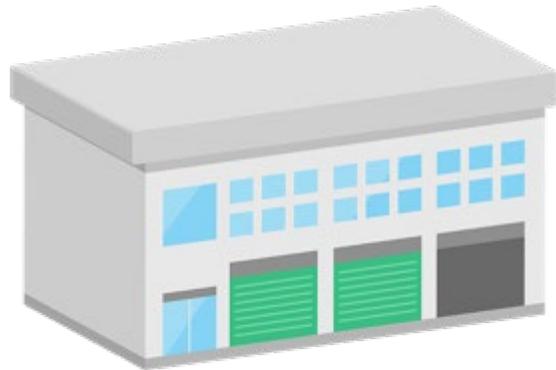
Reuse economy



Circular economy



拠点内で考える



拠点のある流域で考える

